

自然環境保全活動団体 調査報告書
カテゴリ-NO. A-1

団体名	NPO 法人 表浜ネットワーク	代表者名	田中 雄二
活動地域	渥美半島表浜	団体 URL	http://www.omotehama.org/
活動内容			
渥美半島の太平洋（遠州灘）に面した砂浜を表浜と呼んでいる。静岡県の今切から渥美半島先端の大山までが見渡せる、素晴らしい場所だ。だが、この浜は毎年砂が減少し、存亡の危機に瀕している。天竜川上流のダムにより、この浜に砂が供給されなくなったことも大きな原因のようだ。 同会では、この浜を毎年産卵にやってくるアカウミガメにとって重要な場所と位置づけ、保全活動を行っている。初夏から始まるアカウミガメ産卵の季節には、毎日午前2時に起きて、観察を続けている。			
団体間の連携の実績の有無			
○「あかばね塾」、「日本ウミガメ協議会」とはアカウミガメ調査のガイドラインを作成中である。 ○静岡県中田島砂丘で活動する「浜松の海を守る会」とは、堆砂垣を通じての交流がある。			
今までに行った調査研究			
○アカウミガメの上陸数・産卵、孵化の確認。産卵時の砂中温度測定。 ○堆砂垣による砂の堆積状況の調査。 以上のデータは、「表浜ネットワーク」・「豊橋技術科学大学青木研究室」で共有している。			
現在直面している問題			
○砂浜の砂が減少し続け、砂中に埋め込んだ消波ブロックがむき出しになり、アカウミガメの上陸、産卵の障害となっている。 ○希少種のアカウミガメの保護と称して産卵した卵を集約する「孵化場」を浜辺に設置する事業を、「生物多様性事業」として実施しようとしている。これは人間側の「思い込みの保護」で、生物多様性の対極に位置するものである。			
今後どんな情報が必要か			
○地理的に名古屋などの中央からの情報が入りにくい ○団体の横のつながり ○行政との連携 ○地域のネットワーク			
		砂の減少によりむき出しになった消波ブロックが、カメの産卵や子ガメが海へ戻る障害となっている	



2009 年 3 月 8 日
表浜小島海岸での堆砂垣づくり